

2023 年 6 月 30 日

ESG/サステナビリティ領域での新たな取組に関して

東京海上アセットマネジメント株式会社（代表取締役社長横田靖博、以下、「当社」）は、経営理念である「時代を先取りする創造的な企業を目指します。」のもと様々な取組を行っておりますが、今回ベンチャー企業と ESG/サステナビリティの分野での新たな取組に関して共同研究を開始します。

■ 背景

近年、世界各国のネットゼロに向けた長期戦略が出そろう中、2022 年 12 月に「昆明・モントリオール生物多様性枠組（以下、GBF）」が採択されたこと等により、気候変動や生物多様性の損失への危機感 は益々高まっており、大きな影響をもたらす経済主体の一つである企業の取組みにも注目が集まっています。このような環境下において、当社は経営理念である「資産運用を通じて豊かで快適な社会生活と経済の発展に貢献します。」のもと、ESG/サステナビリティの活動を推進してまいりましたが、今回新たに 2 社のベンチャー企業と共に、これら取組を加速させると同時に新たな成長機会の可能性の探求を開始致します。

■ イノカ社とのブルーカーボンに関する共同研究

任意の海洋環境をモデル化し、ラボレベルでの環境解析を可能にする「環境移送技術※1」を有するスタートアップ企業、株式会社イノカ（本社：東京都港区、代表者：高倉葉太、以下「イノカ」）と共に自然資本・生物多様性保全分野での普及促進を目指し、ブルーカーボンの可能性を追求します。

TNFD※2 の発足や GBF における企業による影響評価・情報開示促進の目標化（ターゲット 15）により、各企業は企業活動と自然環境との関係性（依存・影響）に関わる透明性・客観性のある情報開示が求められています。この中、イノカ社が開発を進めている、企業活動が海洋生物多様性に与える影響やリスク／機会の分析に用いることのできる新指標の応用等を検討して参ります。その他、イノカ社が実施している環境エデュテインメントプログラム『サンゴ礁ラボ』事業における、人工生態系と体験型教育を用いた未来世代の可能性を引き出す取組みを通じて ESG/サステナビリティ活動の推進を加速させる事を検討します。

※1 環境移送技術：天然海水を使わず、水質(30 以上の微量元素の溶存濃度)をはじめ、水温・水流・照明環境・微生物を含んだ様々な生物の関係性など、多岐にわたる要素を考慮しながら、自社で開発した IoT デバイスを用いて、任意の生態系を水槽内に再現するイノカ独自の技術

※2 TNFD（Taskforce on Nature-related Financial Disclosures）：自然資本等に関する組織のリスク管理および開示を促すために 2021 年 6 月に設立されたイニシアチブ。

■ フェイガー社との自然由来系クレジット分野における共同研究

農業由来カーボンのクレジットのプロジェクトデベロッパーとして、生成から販売までを行う株式会社フェイガー社（本社：東京都港区、代表者：石崎貴紘、以下「フェイガー」）と共に、自然由来系クレジット分野における業界知識・ノウハウを獲得し、カーボンのクレジットの分野での成長可能性を探索します。また、フェイガー社が組成する農業由来のクレジットを活用し、脱炭素社会および地域経済の発展、環境保全の実現を

目指します。

以上、当社は、これら共同研究を通じて事業会社として国が掲げる 30by30 の達成に向けた海洋や農業などの分野での活動も検討して参ります。更にベンチャー企業との連携や育成を通じた日本経済の発展にも貢献していきます。

～参考～

《株式会社イノカ》

イノカは「人と自然が共生する世界をつくる」をビジョンとし、国内有数のサンゴ飼育技術を持つアクアリスト（水棲生物の飼育者）と、東京大学で AI 研究を行っていたエンジニアがタッグを組み、2019 年に創業したベンチャー企業です。飼育者の職人知に IoT・AI 技術を組み合わせることで、任意の生態系を水槽内に再現する「環境移送技術」の研究開発を推進しており、「海の見える化」をミッションに掲げ、海洋生物多様性に関するラボ研究や教育プログラム「サンゴ礁ラボ」など、独自性の高い事業を展開しています。直近ではこれまでのサンゴ礁生態系の再現に加え、マングローブ生態系を再現した水槽の開発も実現するなど環境移送により再現できる環境の拡大にも取り組んでいます。

《株式会社フェイガー》

フェイガーは農業由来カーボנקレジットの生成を行っており、農家様の脱炭素の取り組みの支援及びクレジット化を通じた収益化を行う日本初のスタートアップです。2023 年度は 10 都道府県、20 地域、100 農家以上を対象としたプロジェクト組成、2024 年度は日本に加え、タイやミャンマー等の海外プロジェクトがスタートする予定です。農業の脱炭素の取り組み収益化を通して、環境に優しい農業を持続可能な形で推進しています。

《東京海上アセットマネジメントのサステナビリティ》

当社は、社会・経済の持続的な成長に貢献する企業行動を実践するため、1.気候変動対策の推進、2.D&I の推進・浸透、3.健やかで心豊かな生活の支援、4.レジリエンスある社会・自然環境の推進、5.ガバナンスを通じた企業価値向上、6.革新的な商品・サービスの支援と創出 を優先的に取組むサステナビリティ課題（マテリアリティ）として設定しております。当社は、特定したマテリアリティに関連した ESG/サステナビリティの活動を推進する事で豊かで快適な社会生活と経済の発展に貢献いたします。

■ お問い合わせ

【本件に関する報道関係者からのお問合せ先】

東京海上アセットマネジメント株式会社

当事業担当（岡田・酒徳）

TEL：03-3212-8301

E-mail：esg_info@tokiomarineam.co.jp

以上